

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機 関 名	京都大学	整理番号	U04
プログラム名称	霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院		
プログラム責任者	北野 正雄	プログラム コーディネーター	松沢 哲郎

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

[総括評価]

計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、京都大学が歴史的に続けてきた独自の野生動物研究の実績を基に、新たな視点を加えて考案されたプログラムであり、多くの優れたスタッフが教育に当たり、良く整備されている。また、スタッフ自身のマネジメント力を有機的に駆使した大学内外での教育、国際シンポジウムでの研究者との交流、学生の自主企画による集団実習など、フィールドワークを中心とした教育体制を確立させている。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、野生動植物の学術的調査等を国内外の諸機関と共同して遂行し、環境を保全する方法について国際的な場で主張ができるグローバルリーダーを養成しつつあり、学生の成長とプログラムの成熟がうかがわれる。しかしながら、産業界との連携がやや希薄に感じられる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、ヘッドクォーターと名付けたコア教員が中心となり、学生のそれぞれの活動に対して、きめ細かく指導する体制が整備されている。また、キャリアパスについては、国際機関等がアウトリーチとして準備されており、学生がグローバルリーダーとして将来世界で活躍することが期待される。

優秀な学生の獲得については、募集人数を上回る応募学生の中から優秀な学生が選抜されている。さらに、学生は入学目的が明確で、研究目標も自分で決めており極めて優秀である。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、L3から入学した学生も、基本的な能力・技術を身につけるための実習など、本プログラムで学ぶ基盤となるプロジェクトが必修となっており、当該プログラムで育った人材にふさわしい実力を身につけるための質が保証されている。

事業の定着・発展については、支援期間終了後も、本システムを京都大学のプログラムとして制度化することとしている点は高く評価できる。